

# 株主・投資家の皆様へ (第78期報告書)

平成28年4月1日～平成29年3月31日



株式会社 **エスライン**

証券コード：9078



### 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は平成29年3月31日をもって、第78期事業年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）を終了いたしましたので、ここに報告書をお届けし、事業の概況等につきまして、次のとおりご報告申し上げます。

平成29年6月



代表取締役社長  
山口嘉彦

### 営業の概況

当社グループの主要な事業であります物流関連業界におきましては、個人消費の低迷により、国内の貨物輸送量の減少傾向が続く中で、労働力不足による傭車費や人件費・外部委託費の増加、労働時間の制約による輸送供給力の低下等の課題も多く、当社グループを取り巻く経営環境は厳しい状況が続いております。

このような状況下で、当社グループは、お客様

からの「物流のさらなる効率化を図りたい」・「自社ビジネスの優位性を高める物流を構築したい」等の声にお応えできる、「安心・安全で信頼される物流企業」であり続けたいとの思いを込めて3ヶ年の中期経営計画を策定いたしました。本年度は、この中期経営計画の初年度として、スローガン「エスラインブランドの確立に向けて」を達成すべく、諸施策を着実に推進してまいりました。

また、本年3月3日には東京証券取引所市場第二部銘柄指定の承認を頂き、同月10日（当社設立70周年の記念日）に東京証券取引所市場第二部に上場を果たしました。今後も皆様のご期待にお応えすべく、当社グループの企業価値の向上を目指す所存でございます。

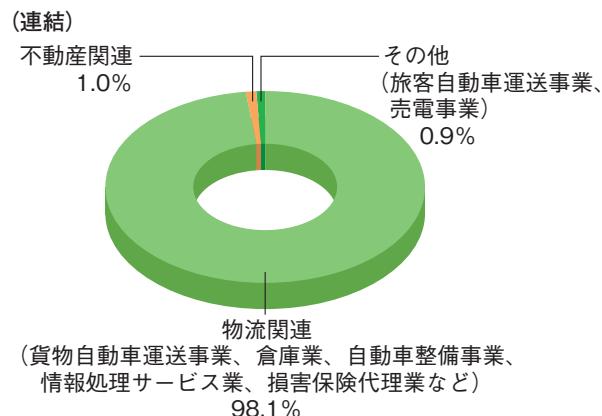
この結果、当連結会計年度の業績は、営業収益444億78百万円（前期比0.5%増）、営業利益14億26百万円（前期比5.1%減）、経常利益15億19百万円（前期比3.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益12億24百万円（前期比9.1%増）となりました。

## 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、世界経済の緩やかな回復を背景に輸出や設備投資は堅調な伸びを見込み、景気は緩やかな拡大基調に向かうと思われまます。昨年後半からは、特別積合せ部門の貨物輸送量は前年を上回ってはいるものの、急速に拡大することは期待できないと予想されます。また、労働力不足や労働時間短縮に向けた取り組み、不安定な原油価格の動向、さらには、安全運転や環境対応に向けた車両や安全装置の導入を始め、コスト増加要因が見込まれる等、当社グループを取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。

このような環境のもと、当社グループでは、安定した輸送品質を提供する中で、適正運賃への改定や、諸料金の見直し、付帯作業の有料化等の料金交渉も積極的に進めてまいります。一方、先期に導入した通信型デジタコやドラレコから収集した、ドライバーの稼働状況や車両の運行状況のデータをもとに、労働時間を中心とした時間管理と人材の適

## 売上構成比



- 正配置や、運行コースの見直しを行うことにより、作業効率や運行効率を高めて、収益向上に努めてまいります。また、平成28年度を初年度とする3ヶ年の『中期経営計画（エスラインブランドの確立に向けて）』も2年目を迎えます。初年度に「物流サービス開発センター」で策定した具体的な行動計画に基づき、以下の取り組みを行ってまいります。
- ①輸送サービスの部門では、取扱い貨物の増量に力を入れるとともに、当社グループ内の車両の配送効率を高めるために、(株)エスラインギフの中部本部内に開設した「総合配車センター」を東日本本部、西日本本部へも展開し、当社グループの「総合配車センター」として、最適な配車を行うとともに、フォワーダー事業による収益拡大に向けた取り組みを行ってまいります。
  - ②物流サービスの部門では、当社が納品物流を行っている衣料品関連量販店様のベンダー様に對し、商品保管・加工・配送までを請け負う、

一貫物流サービスの獲得に向けた、営業活動を進めてまいります。

- ③ホームサービスの内、引越し部門では「スワロー引越便」を当社グループ統一の引越しブランドとし、ご家庭の引越しだけでなく、幹線ネットワークを利用した単身者向け引越し、さらには事務所移転など企業向け引越しの受注に向けたPR活動を積極的に行っております。本年5月には名古屋駅前での事務所の大型引越しも受注し、無事終了いたしました。この実績を活かして、事務所引越しの拡大にも取り組んでまいります。ツーマン配送部門では、当社グループの強みである幹線ネットワークを使った、生産地から利用者までの一貫輸送サービスの営業を積極的に行っております。あわせて、現在は、宅内配送が可能なエリアは、関東・中部地区に留まっていますが、関西や九州地区への配送拠点の拡大展開も進めてまいります。また、引越しや大型商品等のツーマン配送に必要な、作業見積りから商品設置作業および接客マナー等

の教育や訓練を行う「研修センター」を開設し、お客様から、安心して任せて頂ける、作業品質の維持・向上を目指して当センターを活用してまいります。

- ④情報システム部門では、各サービスの業務拡大を実現するための支援機能を有した情報システムの充実と、お客様間あるいは作業する担当者や拠点間でのタイムリーな情報伝達や共有化を図るシステムの構築にも取り組んでまいります。また、SKKS（エスライン経営管理システム）の進化版として、各サービスの収益構造が把握でき、迅速な経営判断を可能とするシステムのレベルアップにも取り組んでまいります。

これらの実行計画を着実に進め、お客様から信頼される物流品質のさらなる向上と、事業領域の拡大を図ることにより、経営目標の達成と企業価値の向上に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 財務ハイライト

### 営業収益

444億78百万円

前期比0.5%

(単位：百万円)



過去最高

### 経常利益

15億19百万円

前期比△3.8%

(単位：百万円)



### 親会社株主に帰属する当期純利益

12億24百万円

前期比9.1%

(単位：百万円)



## 物流関連事業

貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業など

物流関連事業の主な事業収益は、貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業等であります。

貨物自動車運送事業におきましては、中期経営計画のもと、その基本施策である『①輸配送サービス事業の収益確保、②物流サービス事業の積極展開、③人材と物流ノウハウの育成、④経営品質の向上』の実現に向けて、当社内に「物流サービス開発センター」を開設し、その中に専門知識や物流ノウハウを有した当社グループ社員によるワーキンググループ（WG）を立ち上げ、具体的な行動計画の策定作業と実行に取り組んでまいりました。

輸送サービス事業では、国内の運送需要の持ち直しの動きが鈍く、特に特別積合せ部門においては、個人消費の低迷が続いたことにより、小売業向けの消費関連貨物の取扱量が予想以上に悪化しました。このような状況の中で、当社グループの中核会社であります(株)エスラインギフにおきましては、太平洋ベルト地帯を中心とした幹線ネットワークの充実と営業力の強化を目指して、昨年5月に旧三河安城支店の2倍の敷地面積を有する営業拠点（豊田支店（豊田市福受町、敷地面積：6,258.71㎡・外観等は9頁をご覧ください）として移転リニューアルしました。あわせて、昨年8月には豊田支店に隣接する敷地内に豊田センター（2階建、倉庫延床面積：4,187.11㎡・外観等は9頁をご覧ください）を新設し、三河地区の家電配送業務を行う配送センターと、自動車部品の保管・配送を行う物流センターとして営業を開始しました。岐阜地区では、輸配送サービスおよび物流サービスの強化を図るために、昨年11月

436億24百万円

前期比0.5%

■ 営業収益 ■ セグメント利益（単位：百万円）



に(株)エスライン各務原の本社事業所（外観等は10頁をご覧ください）、本年3月には(株)エスライン羽島の本社事業所・荷扱所（外観等は10頁をご覧ください）の増改築を行う等、配送拠点の整備を行ってまいりました。さらには、貨物輸送量増加への取り組みとして、(株)エスラインギフの東日本・中部・西日本の3本部に、特別積合せ貨物以外の輸送貨物である引越しや貸切需要の掘り起しと拡大を図るために「引越・貸切担当」を設置し活動を開始しました。西日本本部では、大阪港湾地区における海運貨物取扱業者（乙仲業者）からの出荷貨物の輸送窓口を当社が受託し、お客様にとってメリットになる輸送手段（特別積合せ輸送、あるいは中ロット貸切輸送）を、当社が判断して、最適な輸送サービスを提供する等の営業活動を積極的に行うことにより、取扱量の拡大を図ってまいりました。これらの営業活動に加えて、本年3月から(株)エスラインギフの中部本部に「総合配車センター」を開設いたしました。このセンターは前述した、引越しや貸切輸送に対して、



新築したエスラインギフ豊田センター倉庫内部

当社グループの車両を適切に配車すること、また、協力会社も含めてのフォワーダー事業を立ち上げるにより、収益の拡大と、保有車両の稼働率アップによる利益改善を目的として、運用を開始しました。

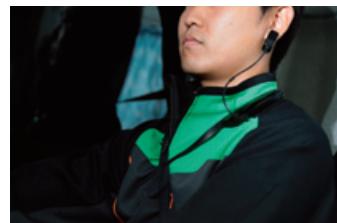
また、家電配送業務におきましては、当社グループが取り扱う家電製品の取扱量が減少したことや、東海地区で運営していた家電量販店様の配送センターが自社運営に変更になったことにより減収となりました。この減収を補うために、家電量販店様から地域内個人宅への配送のみならず、当社グループの強みである幹線輸送網と宅内配送を組み合わせた、生産地から利用者（事務所や個人宅）までの一貫輸送サービスを、家具・家電等の大型商品を扱う通販事業者や家具生産地の業者に知っていただくための営業活動を行うことにより、大型家具、オフィス内家具、さらには、什器や事務機器の配送・設置等、二人での配送（ツーマン配送）が必要な大型商品の取扱量の拡大に努めてまいりました。また、三河地区でのツーマン配送網の充実を図るために、(株)エスラインギフ三河センターと(株)スリーエス物流豊田営業所の2つの配送拠点の統合・再編を行い、新たに(株)エスラインギフ三河センターとして、大型商品の配送センター業務を開始しました。これにより固定費の圧縮と配送効率の向上を図ることが出来ました。

物流サービス事業では、取扱量が多い(株)スリーエス物流におきましては、大手GMS（総合スーパー）の販売不振により、物流加工の取扱量が減少したことと、お客様から物流センター間の輸送手段をトラックから鉄道輸送に切り替える（モーダルシフト）方針が出されたことで収益に大きな影響がありました。また、ペット用商品等、今まで取り扱っていなかった分野の商品を取り扱うこと等により、物流サービスの確保に努めてまいりました。また、昨年5月からは、今までに取り組んできた物流加工サービスの作業実績が評価されたこ

とと、物流センターの立地条件が良いこと等が評価され、新たに菓子卸問屋様の商品保管・出荷仕分けから配送までを行う一貫物流サービスを受注し順調に稼働してまいりました。(株)エスラインギフにおきましては、自動車ディーラーがお客様からお預かりした夏冬タイヤを倉庫で保管して、タイヤの交換時期には必要とされるタイヤのお届けや交換済タイヤの引き取りを行う、「タイヤ保管・配送サービス」を開始する等、既存の施設と現場ノウハウ、ならびに当社が持てる配送手段をご要望に応じて組み合わせることにより、お客様に喜ばれる総合物流サービスの提案営業活動を積極的に展開してまいりました。

一方、安全面での取り組みとして、幹線輸送を行う大型車両250台にドライブレコーダー（ドラレコ）と連動した通信型デジタルタコグラフ（デジタコ）を導入（代替）しました。ドラレコ画像を使った「ヒヤリ・ハット」事例による安全教育や、「急」が付く運転状況の分析をもとに、ドライバーの安全運転に向けた教育・指導に役立ててまいりました。また、ドライバーの稼働状況の「見える化」と、車載器に内蔵されたGPSによる車両位置の「見える化」により、適切な運行指示と配車指示が可能となりました。あわせて、眠気検知システムを35台試験導入しました。このシステムは「眠気」を事前に検知し、本人にはバイブレーションで、運行管理者には携帯電話のメールで通知することにより、早めの休憩を促す等、乗務員の安全運行を実現することが可能となり効果を発揮しています。

この結果、物流関連事業の営業収益は436億24百万円（前期比0.5%増）となりました。



試験導入した眠気検知システム

## 不動産関連事業

### 不動産賃貸業

不動産関連事業におきましては、当社グループ各社にて保有している不動産の有効活用を図るために、外部への賃貸事業を営んでまいりました。昨年8月より(株)エスラインギフの旧三河安城支店（安城市北山崎町）の施設の賃貸を開始しましたが、一部物件の賃料見直しや一宮地区の物件が用途変更に伴い当セグメントから外れる等、減収要因が発生したことにより減収となりました。

この結果、不動産関連事業の営業収益は4億66百万円（前期比2.3%減）となりました。

## その他事業

### 旅客自動車運送事業、売電事業

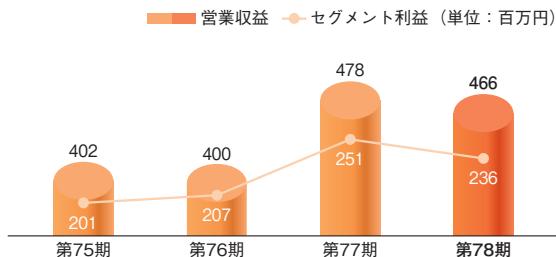
主に、旅客自動車運送事業および売電事業を営んでおります。旅客自動車運送事業におきましては、岐阜市内の高校や近隣の大学の通学バスおよび冠婚葬祭時の送迎バス、さらには競輪場のファンバス等、地元に着着した運行業務に取り組んでまいりました。

また、物流センターの屋上や支店構内に太陽光パネルを設置し、発電した電力の売電事業を営んでまいりました。昨年5月から(株)エスラインギフ豊田支店の屋上に、昨年11月から豊田支店に隣接する豊田センターの屋上にそれぞれ太陽光パネルを設置し、売電事業を開始しました。現在、(株)エスラインギフの名古屋第1・第2センター、豊橋支店、豊田支店、豊田センターおよび(株)スリーエス物流の本社第1センターの計6か所で発電を行っております。（総発電量1,333.96kW）

この結果、その他事業の営業収益は3億86百万円（前期比4.2%増）となりました。

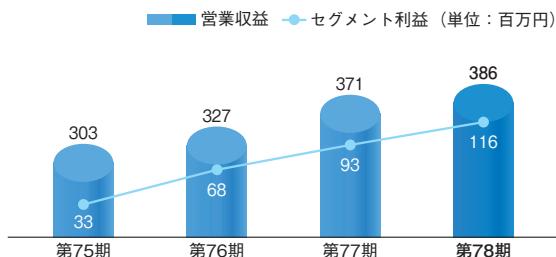
4億66百万円

前期比△2.3%



3億86百万円

前期比4.2%



エスラインギフ豊田支店屋根に設置した太陽光パネル



エスラインギフ豊田センター屋根に設置した太陽光パネル

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第78期	第77期
	平成29年3月31日現在	平成28年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	9,501	9,388
固定資産	23,316	22,386
有形固定資産	20,760	19,796
無形固定資産	91	87
投資その他の資産	2,464	2,502
資産合計	32,818	31,775
<b>負債の部</b>		
流動負債	7,380	7,284
固定負債	6,784	6,543
負債合計	14,164	13,827
<b>純資産の部</b>		
株主資本	18,722	17,454
その他の包括利益累計額	△69	△285
非支配株主持分	—	778
純資産合計	18,653	17,947
負債純資産合計	32,818	31,775

## ポイント

### ■資産

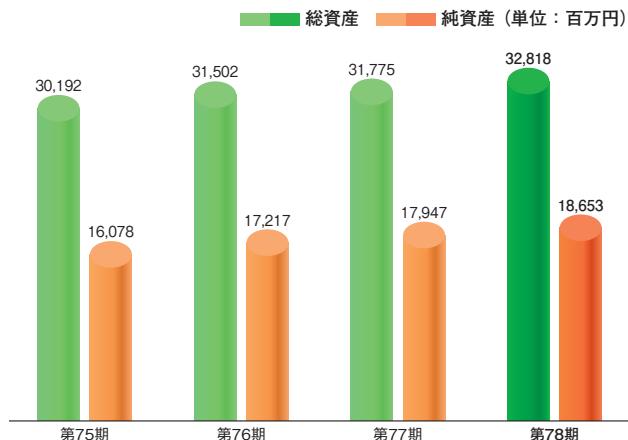
連結資産合計は328億18百万円（前連結会計年度末317億75百万円）となり、前連結会計年度末比10億42百万円増加しております。この主な要因は、有形固定資産の増加であります。

### ■負債

連結負債合計は141億64百万円（前連結会計年度末138億27百万円）となり、前連結会計年度末比3億36百万円増加しております。この主な要因は、営業未払金と有利子負債の増加であります。

### ■純資産

連結純資産合計は186億53百万円（前連結会計年度末179億47百万円）となり、前連結会計年度末比7億5百万円増加しております。この主な要因は、利益剰余金の増加であります。



## 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第78期	第77期
	平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで
営業収益	44,478	44,267
営業原価	41,397	41,166
営業総利益	3,080	3,100
販売費及び一般管理費	1,654	1,597
営業利益	1,426	1,503
営業外収益	121	106
営業外費用	28	29
経常利益	1,519	1,580
特別利益	160	130
特別損失	18	41
税金等調整前当期純利益	1,662	1,668
法人税等	432	490
当期純利益	1,229	1,178
非支配株主に帰属する当期純利益	4	55
親会社株主に帰属する当期純利益	1,224	1,123

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第78期	第77期
	平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで	平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	2,021	2,232
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,114	△1,698
財務活動による キャッシュ・フロー	4	△527
現金及び現金同等物に 係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物 の増減額	△88	6
現金及び現金同等物 の期首残高	3,051	3,425
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額	—	△380
現金及び現金同等物 の期末残高	2,963	3,051

### ポイント

#### ■営業活動によるキャッシュ・フロー

20億21百万円の収入（前年同期は22億32百万円の収入）となりました。この主な収入は、税金等調整前当期純利益と減価償却費の計上であります。

#### ■投資活動によるキャッシュ・フロー

21億14百万円の支出（前年同期は16億98百万円の支出）となりました。この主な支出は、固定資産の取得であります。

#### ■財務活動によるキャッシュ・フロー

4百万円の収入（前年同期は5億27百万円の支出）となりました。この主な収入は、借入の実行によるものであります。

この一年の主な出来事

施設の新設

豊田支店がオープンしました。

エスラインギフ三河安城支店(2階建・延床面積1,624.49㎡)が狭隘となったことにより、豊田市内に豊田支店として2016年5月に新築移転しました。施設は約2倍(敷地面積6,258.71㎡)へと拡大し、集配効率および作業効率を高めました。(2階建・延床面積3,331.36㎡)



(株)エスラインギフ

無事故運動

労使共催の無事故運動「つばめのシアワセ大運動」を実施しました。

今から約50年前、重大事故が続いたため、全従業員から事故防止の機運が高まり、労使・家庭が一体となり、「つばめのシアワセ大運動」がスタートしました。現在では、毎年7月の1ヶ月間、当運動を実施しています。



(株)エスラインギフ

IR活動

名証IRエキスポに参加しました。

継続11年目の参加となり、株主様へのアンケートやミニ説明会を実施し、広く株主様に事業内容等をアピールしました。



(株)エスライン

CSR活動

会社近隣の清掃活動を行いました。

CSR活動として、朝8時から本社職員全員で清掃活動を行いました。これからも地域社会に貢献できるよう、取り組みを行ってまいります。



(株)エスラインギフ

2016

4

5

5/10  
決算発表

6

6/29  
定時株主総会

7

8

8/9  
第1四半期  
決算発表

9

IR活動

決算説明会を開催しました。

2016年5月(参加者23名)および11月(参加者16名)に、証券アナリスト・ファンドマネージャー・プレス等を対象に決算説明会を開催しました。当日は、当期の計画に対する決算状況説明や、中期経営計画の達成に向けた具体的な施策の実施内容等について説明を行いました。



(株)エスライン

施設の建替

本社社屋建替工事の地鎮祭を行いました。

エスライン羽島の本社は1973年築、エスライン各務原の本社は1982年築であり、老朽化に伴い建替をすることとなりました。



(株)エスライン羽島・各務原

施設の新設

豊田センターがオープンしました。

三河地区の家電部門を1ヶ所に集約するため、また自動車部品の保管配送を行うため、2016年8月に豊田センターを新築しました。(2階建・延床面積4,187.11㎡)



(株)エスラインギフ

施設の新設

中津川支店内に TENT 倉庫を新設しました。

物量増加により、ホームが狭隘となったため、2016年8月に支店構内に TENT 倉庫を新設しました。(延床面積333.35㎡)



(株)エスラインヒダ

## 施設の建替

本社社屋が完成しました。

老朽化に伴い建替を行っていたエスライン羽島の本社社屋および倉庫が2016年10月に完成しました。  
(2階建・延床面積530.65㎡)



(株)エスライン羽島

## CSR活動

会社近隣の清掃活動を行いました。

CSR活動として、朝8時から本社職員全員で清掃活動を行いました。  
これからも地域社会に貢献できるよう、取り組みを行ってまいります。



(株)エスラインギフ

## 広報活動

オート三輪トラックがラジオで紹介されました。

2017年1月10日に、CBCラジオの番組「よりどりっ」で、松本結花レポーターからオート三輪トラックの復活とその歴史についてインタビューを受けました。



また、2017年2月17日に、ぎふチャンラジオの番組「耳からゴックン!」で、竹内美波レポーターからオート三輪トラックの復活とその歴史についてインタビューを受けました。



(株)エスライン

10

11

11/9  
第2四半期  
決算発表

12

2017

1

2

2/9  
第3四半期  
決算発表

3

## 施設の建替

本社社屋が完成しました。

老朽化に伴い建替を行っていたエスライン各務原の本社社屋が2016年11月に完成しました。  
(2階建・延床面積398.00㎡)



(株)エスライン各務原

## 周年記念

会社設立70周年を迎えました。

当社は、2017年3月10日に会社設立70周年を迎えました。株主の皆様をはじめとする関係各位のご支援に、深く感謝をいたしております。



(株)エスライン

## 新規上場

東京証券取引所市場第二部に上場しました。

会社設立70周年の記念日と同日の2017年3月10日に、東京証券取引所市場第二部へ上場しました。  
これからも、新たなステージでさらなる飛躍を目指し、邁進してまいります。



(株)エスライン

## 施設の建替

本社2期工事が完成しました。

老朽化に伴い建替を行っていたエスライン羽島の北面ホームが2017年3月に完成しました。  
これにより、2トン、4トン、大型車全てが接岸できるようになり、作業効率が高まりました。



(株)エスライン羽島

## 東京証券取引所 市場第二部へ上場しました。

当社は、本年3月3日に東京証券取引所より、市場第二部への上場承認をいただき、3月10日(会社設立70周年記念日)に上場いたしました。

今後も、『中期経営計画』(2016年4月～2019年3月)の達成のための実行計画の推進、また、経営目標の達成と企業価値のさらなる向上のために、エスライングループ全社一丸となって取り組んでまいりますので、株主の皆様には、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

投資家向けTV  
「ストックボイス」に出演！



東証VIPルームの鐘の前にて

上場日の東証の電光掲示板「チャッカー」

## グループ会社一覧

### 持株会社

(株)エスライン

### エスライングループ

(株)エスラインギフ  
(株)エスライン九州  
(株)エスラインヒダ  
(株)エスライン羽島  
(株)エスライン郡上  
(株)エスラインミノ  
(株)エスライン各務原  
(株)エスライン奈良

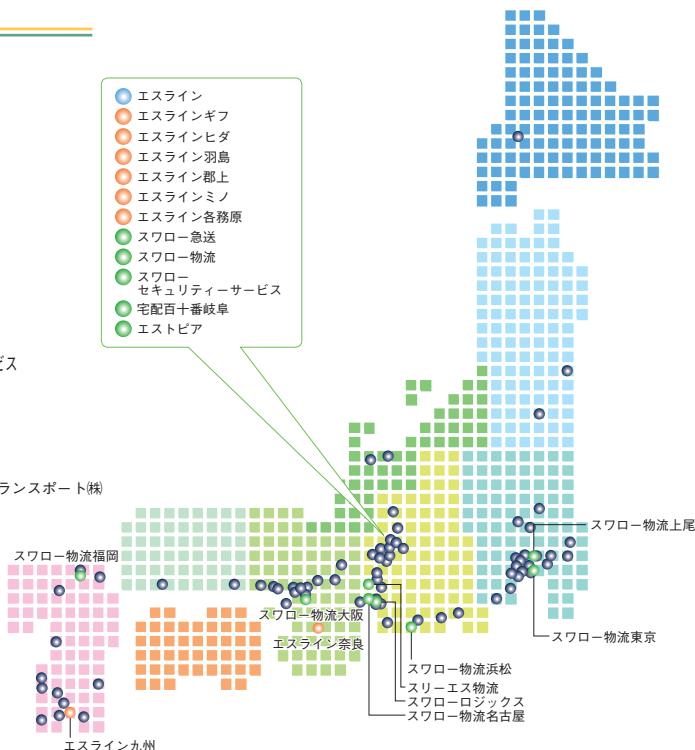
### スワログループ

(株)スリーエス物流  
(株)スワロー急送  
(株)スワロー物流  
(株)スワロー物流東京  
(株)スワロー物流浜松  
(株)スワロー物流名古屋  
(株)スワロー物流大阪  
(株)スワロー物流福岡  
(株)スワロー物流上尾  
(株)スワローセキュリティサービス  
(株)宅配百十番岐阜  
(株)スワローロジックス  
(株)エストピア

・持分法適用関連会社：TSトランスポート(株)

● 支店・営業所

- エスライン
- エスラインギフ
- エスラインヒダ
- エスライン羽島
- エスライン郡上
- エスラインミノ
- エスライン各務原
- スワロー急送
- スワロー物流
- スワロー
- セキュリティサービス
- 宅配百十番岐阜
- エストピア





## 会社概要

社名	株式会社エスライン
英文社名	S LINE CO.,LTD.
設立	昭和22年3月10日
資本金	19億3,852万6,015円
上場取引所	東京・名古屋証券取引所 市場第二部
本社所在地	岐阜県羽島郡岐南町平成四丁目68番地 電話 (058) 245-3131 (代表)
従業員数	2,117名 (連結)

## 役員

代表取締役社長	山口嘉彦
取締役副社長	村瀬博三
取締役	桑原等武
取締役	白木武一
取締役	加藤孝一
取締役	青木浩一
取締役	堀江繁幸
取締役	村瀬明治
取締役	笠井大介
取締役 (常勤監査等委員)	辻上忠範
社外取締役 (監査等委員)	中村正
社外取締役 (監査等委員)	岡本実

## 経営の基本理念

### エスラインの姿勢 (社風)

ときめき (自主性) ひらめき (創造性) こたわり (独自性)



- お互いがお互いに教え教えられる教育の場
- 働き甲斐・生き甲斐を求める人づくり

### 基本理念

#### 〔和〕

社は「和」のもと、労使一体の全員経営により、輸送の使命を果たす。

#### 〔法の遵守〕

法または関係法令およびその精神を遵守し、社会から信頼される企業を目指す。

#### 〔社会貢献〕

地域に密着した企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献する。

#### 〔環境と顧客の優先〕

環境に配慮した物流企画の提案に努め、満足していただける物流を提供する。

#### 〔全員参加〕

全社員が企業の運営を分担する全員経営により、対話と活力に満ちた企業風土をつくる。

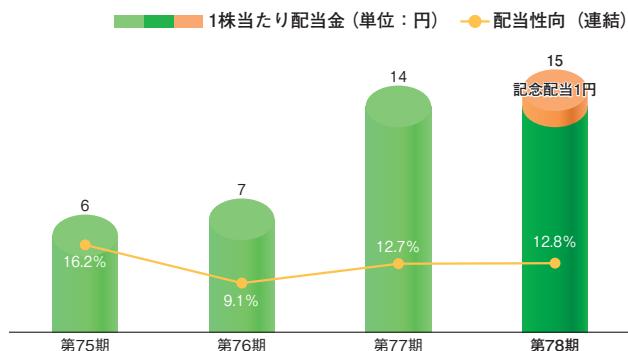
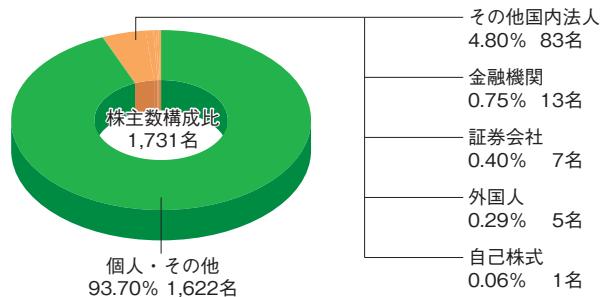
## 株式の状況

発行可能株式総数	40,847,000株
発行済株式の総数	10,545,203株
株主数	1,731名

## 大株主の状況 (上位10名)

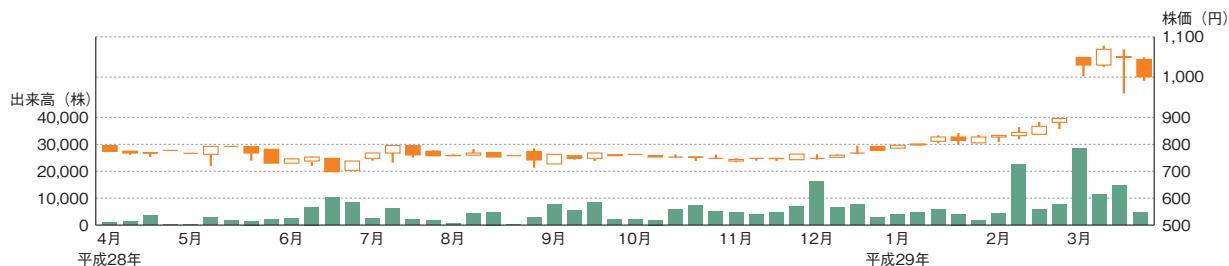
株主名	持株数 千株	持株比率 %
有限会社美美興産	1,323	12.54
株式会社大垣共立銀行	500	4.74
みずほ信託銀行株式会社	500	4.74
株式会社十六銀行	493	4.68
明治安田生命保険相互会社	463	4.39
エスライン従業員持株会	430	4.07
株式会社市川工務店	420	3.98
株式会社三菱東京UFJ銀行	385	3.65
王子運送株式会社	277	2.62
三菱ふそうトラック・バス株式会社	219	2.08

## 株式分布状況



※当社は、平成27年10月1日を効力発生日として普通株式2株を1株の割合で株式併合を実施いたしました。これに伴い、第76期の期末配当につきましては、当該株式併合の影響を考慮すると14円となります。

## 株価の推移



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当基準日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 公告掲載URL <a href="http://sline.co.jp/">http://sline.co.jp/</a> ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱できませんので、ご了承ください。  みずほ証券 本店、全国各支店 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でもお取扱いたします。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行（※）およびみずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵送物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

## 株主優待制度について

- 対象となる株主様  
毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された100株以上を保有する株主様を対象といたします。
- 贈呈品および贈呈時期  
毎年、定時株主総会終了後の6月下旬に、1,000円分のQUOカードを、「定時株主総会決議ご通知」とともにお送りいたします。



QUOカードイメージ

## 「会社設立70周年記念特設ページ」を開設しました！

当社は、昭和22年3月10日に設立して以来、幾多の歴史を積み重ね、本年3月10日に会社設立70周年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆様のご支援の賜であると、深く感謝をいたしております。

今般、この節目の年を迎え、当社の70年の歴史を振り返り、また、より多くの皆様方に当社の事業内容を紹介し、一層の企業価値向上を目指すために、～Challenge from the 70th～と題した動画『70周年記念PV（プロモーションビデオ）』を製作し、ウェブサイト上に特設ページを開設いたしましたので、ぜひご覧ください。

こちらをクリック！



当社ウェブサイトTOPページ

## 株式会社 エスライン

〒501-6013 岐阜県羽島郡岐南町平成四丁目68番地  
TEL : 058-245-3131 FAX : 058-240-4850  
<http://sline.co.jp/>  
当社ウェブサイトも、ぜひご覧ください。

エスライン

検索

